

ロンドン五輪2012 ウェイマス潮流調査報告

斉藤愛子

北京五輪からの続きで、東大大学院の早稲田先生の指導のもと、2008年12月から準備を始め、本番でチームが使う潮流データを作成した。以下、各年で実施した調査と最終資料として準備したものを説明する。

1. 目的

2012年ロンドン五輪のセーリング会場となるウェイマスのオリンピック時期の潮流データを作成する。

- ・モデル作成
- ・紙ベース資料の作成
- ・市販データとの比較

2. 調査

1) 2009年8月11日～18日

基本情報の収集 — 参加者：斉藤愛子、岡本治朗、伊藤翔、清松啓司

- ・エリア確認、検潮所、周辺の地理情報収集
- ・海上のグリッドポイントで漂流棒にて潮の確認
- ・流速測定ブイ2個を設置、データ収集
- ・海上で鉛直方向の塩分密度・密度勾配の計測

2) 2010年6月17日

データ収集用（ADCP音響ドップラー流速プロファイラー）
観測艇「あめんぼ」のトライアルテスト（平塚）

参加者： 斉藤愛子、岡本治朗、早稲田卓爾、鶴沢潔、伊藤翔、清松啓司、
西田智哉、小平翼、中川哲志（SEA社）

- ・ADCPを使ってのデータ収集のテスト
- ・東大・平塚塔で収集しているデータとの比較

3) 2010年7月20日～30日

ADCPを用いた潮流計測、風データ（同時）計測
観測艇「あめんぼ」をウェイマスへ運び、現地で測定

参加者： 斉藤愛子、岡本治朗、伊藤翔、西田智哉
吉迫由香、大熊典子、高橋香（選手の手伝い）

- ・ADCPにより水面だけでなく、水深20mまでの流速・流向データを収集
- ・風データと合わせて表面流の影響を検討するデータを収集

4) 2011年2月21日～26日

和歌山NTCにて「あめんぼ」改良テストと和歌山潮流データ作成

参加者： 斉藤愛子、岡本治朗、早稲田卓爾、伊藤翔、西田智哉、小平翼、
和田良太、中川哲志（SEA社）

- ・「あめんぼ」を波に強く改良しテストを実施
- ・ウェイマスでの測定の練習と準備

- 5) 2011年7月10日～20日
ウェイマスにてデータとモデル作成に必要な情報を収集
参加者：中村健次、斉藤愛子、早稲田卓爾、鶴沢潔、西田智哉、小平翼
和田良太
- ・ADC P走行を繰り返し、データ収集
 - ・モデル作成作業
 - ・プレ五輪用の資料作成
 - ・市販データと比較
- 6) 2012年5月27日
味の素NTCにて代表選手合宿で講習
参加者：早稲田卓爾、西田智哉、小平翼、和田良太
ロンドン五輪代表選手、スタッフ
- ・ウェイマスの潮についての基本説明
 - ・作成モデルの説明と選手・コーチからの意見収集
 - ・紙ベース配布資料の説明と選手・コーチからの意見収集
- 7) 2012年6月1日～10日
SFG大会期間中の潮流情報の配布
参加者：西田智哉
- ・準備したデータを防水シートで配布
 - ・選手、コーチからのフィードバックのまとめ
- 8) 2012年7月3日
潮流資料受取
- ・東大・柏キャンパスにて本番用資料を受取
(防水紙に印刷し日分け済、PCデータの両方)

3. 反省と課題

- ・北京五輪と比較すると期間があり、調査の回数も増え、収集データ量も増えた。
- ・現地調査→データ収集→モデル作成→データ検証→本番資料作成という流れだった。
- ・モデル作成は苦心したが、完成モデルは満足のいくデータを表した。
- ・紙ベース資料は耐水ペーパーにレーザープリンターで印刷し、効率良かった。
- ・本番資料は事前のフィードバックから、現場の希望にかなうように準備できた。

2016年にむけて：

今回の作業が全て2015年のプレ五輪をターゲットに終わり、プレ五輪が本番用の資料でテストできたなら、選手・コーチへの情報利用の教育期間がもて、活用する幅が広がるのではないかと。未完成でもデータを提供していくことで、選手との意見交換からデータ活用に発展していくことは重要なポイントである。

資料：本番での紙ベース資料サンプル